JEMS
JAPANESE EVANGELICAL MISSIONARY SOCIETY

マウントハーモン修養会
時報：2022年 夏

大胆に恵みの御座へ

サウスベイホーリネス教会牧師
関　勇矢師

今回、初めてマウントハーモンに参加することが出来、ヘブル人への手紙4章14–16節の聖書箇所から、「大胆に恵みの御座へ」と題して説教させていただきました。

恵みの御座とは、何を意味するのでしょうか。 それは私たちの救い主であり、神の御子イエス・キリストが今もとこしえにおられるところです。 キリスト教会が2000年以上の歴史の中で絶えず見上げ続け、立ち返るべきところ、私たちの信仰の原点です。

しかも御座におられるイエス・キリストは、私たちのためにこの世に降りてきてくださいました。 私たちが、この世の歩みにおいて人生のどん底を経験する時、悲しみや失望の只中にいる時、イエスさまが私たちのところまで降りてきてくださる事を私たちは知っています。 いやむしろ、イエスさまの方から出会いの場を設けてくださるのです。 それは神様からの恵みなのです。

ヘブル人への手紙の全体を読むと、神の子イエスは偉大な大祭司であると多く記されています。 この大祭司は、神でありながら私たちと同じ人間となり、この世に降りてきてくださいました。 そして父なる神と私たちを繋げてくださる救い主として、人間の罪を全て背負われ、十字架の裁きを受けてくださり、ご自分を父なる神の御前に生贄として捧げてくださいました。 だから私たちは、どんな時でもイエスさまを私の救い主！という信仰を告白し続けることが出来るのです。さらに聖書は私たちにもう一つのチャレンジを与えています。 16節では、「ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。」と呼びかけられています。 「大胆に」イエス・キリストに近づけということです。

聖書は私たちに、あなたの本当の想いや嘆きを、その全てを大胆に神に告白しなさいと言います。 しかし私たちは、神の憐れみと恵みを知っていてもなお、大胆に主の御前に告白出来ない自分自身を知っています。 有名なバックストンという牧師はこの14節の御言葉を、「私たちはイエス・キリストを持っている」と表現し説教しました。 イエス・キリストを持っているとは、わかりにくい表現ですが、キリスト者は確かに主を私の救い主として信じ受け入れた経験をしていると言っているのです。 聖霊を通してイエス・キリストが内に住んでくださっている、そうであるならば、私たちはイエス・キリストを確かに持っているわけです。 だからこそ自分の救い主として信じた信仰の告白を堅く保ち、そして大胆に近づいて、いけるわけです。

しかし神の愛とゆるしの中に歩んでいても、現実は難しいことが多くあります。 キリストが私と共におられるという事が信じられない自分、大胆に主に近づくという事を恐れる自分がいます。 罪深い自分自身を知るとき、こんな自分でも主に大胆に近づくようなことが出来るのだろうか。 心で思うあの事この事を告白してはいけないのではないか、呆れられるのではないか。 恐れと迷いが生まれます。 しかしそれでも私たちに、この御言葉はもう一度大胆に御座に近づくようにチャレンジしています。 なぜなら、神は私たちの弱さに同情してくださるお方だからです。 15節にあるように、私たちの大祭司は私たちと同じように試みにあわれ、その苦しみの只中にまで降りてきてくださったからです。 降りてきてくださる方と出会うためには、降りてこられる場所にいなければ出会うことは出来ません。 自分でなんとかしよう、自分で解決しようと上へ上へと自分の力で自分を救おうとするならば、このお方とすれ違ってしまいます。

私たちが降りてきてくださるお方と出会うためには、大胆になれない自分を素直に認めることです。 罪深い自分自身を認めることです。 むしろ私たちの大胆さとは、弱さそのものを聖霊によって認めることです。 そしてその姿のまま神に近づいて行くとき、そこには神の憐れみと恵みがあることを知るのです。 イエス・キリストはそのために私たちの大祭司として、神への悔い改めの道を用意してくださったのです。 私たちの弱さのあるところにこそ、恵みの御座のあるところとなるのです。 ここでキリストと出会い続けるのが、私たちキリスト者であり、教会の姿です。 礼拝とはまさにこの恵みの御座が開かれているところなのです。

皆様に主の憐れみと恵みがありますように。

主のみ心のうちに歩む恵み

新山 千咲
Lighthouse Christian Church (Bellevue, WA)

今年の夏、初めてマウントハーモンの日本語修養会にワシントン州から主人と共に参加させていただく恵みに預かりました。過去に高校生だった娘２人を何年もこのキャンプに送ってきましたが、自分達も行ってみようと思ったのは、今回が初めてのことでした。 今、この一週間の修養会を振り返る機会が与えられ、頂いた恵みの深さに圧倒されながら、主が今年このマウントハーモンに私たちを送って下さったのは、今が神様の時だったのだと実感させられています。

私の人生はある意味で転換期にありました。 誰もが、過去２年余りのコロナ禍で、様々な所を通らされてきたと思いますが、私もその例に漏れず、そのことが自分の人生の転換に拍車をかけることになりました。 長年集った教会から離れ新しい教会に変わったこと、キャリアの転換、家族の状態の変化、健康上のことなど自分の計画には無かったことが次々と起こり、私の人生に何が起こっているのか、深く考え祈らされていました。 また主人も自分達の人生が新しいステージに入っていることを認識し、神様が何を導いて下さるのか期待していた時期でもありました。

この修養会で最も有意義だったのは、自分の人生、特にクリスチャンになってからの人生をじっくりと時間をかけて振り返ることができたことです。 どの時点のどんな出来事の上にも神様の導きの手があったことを感じ、神様は私の祈りに応えて、確かに、主ご自身のみ心に沿って、私を歩ませて下さっていたことを思いました。

み心を知るということ、み心のうちに歩んでいるという確信を得ることは時には難しいことです。 でもこの修養会で毎日、関真士牧師がメッセージを取り次いで下さる中、神様が本当に真実な方であることを教えられました。 こんな私でいいんですか、こんな生き方でいいんですかと迷い、動揺ばっかりしてきた自分に、主の恵みがもう十分であること、そしてそれを疑わずにただ信じて歩めばいいのだということを再確認しました。 神様は私の叫びを残さず聞いて下さっていて、今も生きてとりなして下さるイエス様と私の内に住んで下さっている聖霊の力があるのだから、これ以上に豊かで安心して、守られて生きていける人生は他にないのだと思いました。 今まで主のみ心に従いたい、神様の望まれる道を歩みたいと思う時、私は、ただ前に進むことしか考えてこなかったように思います。 その思いとは裏腹に実際は、紆余曲折、時には、後ろに退いていく日々がありました。 でも先生が先に進むためにバックギアーが必要なのだと言われた時に本当にハッとしました。 どんな時でも神様が共にいて下さり、歩む道筋をつけていて下さったことに気づかされました。 空回りをし、後退りしていたような日々ですら愛おしく思えるようになりました。そんな時でも確かに主のみ心の中に置かれていたことには感謝のほかはありません。

そしてもう一つの大きな恵みは、たくさんの主にある兄弟姉妹との出会いを通して、それぞれの方々のうちに働かれる神様の素晴らしい業をたくさん見せていただいたことです。 同じ神様を私たちの主と仰ぎ、賛美し、御言葉を真剣に聞き、そして従おうとする一体感に大きな祝福を感じました。飛び入りで、賛美チームにも加えていただき、みんなと喜びと笑いに溢れながら主を賛美できたことはかけがえのない体験でした。 またモンゴルキッズの家、とどまる学園をはじめとして、さまざまなミニストリーを紹介していただき、それぞれが、神様の召しに従い、イエス様の愛と救いの恵みを伝えるため一生懸命奉仕なされていることに大きな刺激と励ましを受けました。 こんなにも主はその思いのある者たちを豊かに用いて下さるのです。 彼らの真実な証に私もまた全てを委ね、求めていきたい気持ちにさせていただきました。

この一週間の恵みとマウントハーマンでの楽しかった思い出を書き尽くすことはできませんが、来てみたらわかる！と誘ってくれた友達の言葉を実感として感じています。 是非いろんな方にこの素晴らしい経験をしていただきたいと思いました。 主にある兄弟姉妹と励まし合いながら、この私たちに委ねられた素晴らしい福音を一人でも多くの方に伝えていきたいと思います。そして、毎日自分の歩みが主と共にあることに喜び感謝して生かせていただきたいと思います。

神様の完全な愛

山上 弘子
サンタクララバレー日系キリスト教会

1983年の夏、サンノゼにいた叔母さんを頼って、2年間の留学予定で渡米しました。何もわからず、英語も話せず、車の免許もなく、夏休みだったこともあり、退屈な日々を過ごしていました。 毎日のように、家族や友人に葉書や手紙を書いていました。 その時、叔母は知人のいるサンタクララ教会に私を連れて行ってくれました。 そこには、当時友愛会という若い留学生のいる楽しいグループがありました。 すぐに仲間に入り、ランチを一緒に食べたり、聖書研究、祈り会へと何もわからない私をみなさんが優しく受け入れてくださり、学校のことや、留学の悩み等を分かち合ってくれました。 当時の私には、本当に大きな助け、励ましでした。 一世のおじいちゃん、おばあちゃんに大変お世話になりました。 毎週金曜日の夜の聖書研究、そして美味しい日本食のディナー、今も信仰の良き先輩たちの喜びに溢れた顔が浮かびます。 一年後の1984年のイースターに吹上信一牧師より洗礼を受けました。 その頃の友人の中には、藤岡二郎牧師、関真士牧師がいました。 今も二郎さん、真ちゃんと呼んでしまいます。一緒に楽しい聖書研究をしていました。洗礼を受けた時に吹上牧師よりいただいた本に黙示録2章10節よりの「死に至るまで忠実であれ」の言葉があり、私の座右の銘にしています。

当時、2回か3回はマウントハーモンに友人と行った記憶があります。 今年は、なんと30年ぶりにマウントハーモンに導かれました。 最初から神様の完全なご計画と愛と憐れみによって始まり、終わったというめぐみが溢れる場所でした。 思い返してみると、まさに主からのメッセージと参加されたみなさんとの出会いに言い尽くされます。お一人、お一人の名前は覚えていないかもしれませんが、主によって招かれた場所に重荷をおろす、神様のめぐみの座に進み出る信仰の決断、聖霊の働きに敏感になる場所でありました。

関真士先生によるマタイ8章、9章からイエスの心、驚き、権威、招きそして励ましのメッセージはとても心に深く残りました。 イエスがどんなお方であるかを知り、心の叫びを聞いてくださる神様がいつも共にいてくださるという信仰をもっているのは、なんと幸いなことでしょう。 またスモールグループの方々との分かち合いで主の取り扱いを確認することができました。 みことばを瞑想する時も深い聖霊の働きを経験しました。 特に私の心に神様が語りかけてくださったメッセージは、イエス様が百人隊長に「さあ行きなさい。 あなたの信じたとおりになるように」と言ったところでした。 まずGo Home、家に、教会に、コミュニティに帰って身近なところで信仰を宣言、すべてのことを神様に信頼し続けていくことが示されました。 神様は共にいて戦ってくださっているのも事実です。 スモールグループの面々は偶然ではなく、神様が配置してくださった姉妹たちでした。 主にあって、素晴らしいシェアの時、励まされる時でした。 また、神様への信仰をまっすぐに軌道修正させられました。 人にどう見られるか、どう思われるかの評価を気にする誘惑が心にあった気がします。完全には払拭できないかもしれませんが、今、神様の前にわたしの心の状態はどうなのか、神様に喜ばれているのか、自分を喜ばせているのかを意識するようになりました。

神様はいつもベストな場所、そして人々を備えていてくださるお方です。 わたしが行くべき場所、会うべき人々、聞くべきメッセージを神様は用意してくださっていたのです。

コロナ禍でまだまだ大変な中、神様の計り知れないご計画の中でこのマウントハーモンがあったのだ、と山から降りて、この証しを書きながら確認しました。 また来年お会いしましょう。 主の山で。

日語部マウントハーモン修養会報告

JEMS日語部コーディネーター 藤本 三奈子

第73回JEMSマウントハーモンファミリーキャンプが6月26日から7月2日までマウントハーモンカンファレンスセンターで開催され、ハワイ・ホノルルキリスト教会の関真士牧師をお迎えして、朝の聖書講解を学ばせていただきました。 先生は、マタイ福音書を通して、イエス様との人格的な出会いを求めて福音書の中に飛び込んでいくというイメージで私たちを導いてくださいました。 夜の集会では、毎晩異なる牧師が、今回の修養会のテーマであるヘブル10章23節「約束した方は真実な方ですから」からメッセージを語ってくださいました。 コロナ感染の影響で、関先生は木曜日の午後にロサンゼルスに移動されましたが、その後のメッセージもオンラインでみこ言葉を力強く語って下さいました。 今回、日語部では40名の参加があり、その内の14名が初参加でした。 参加者の方々が互いの必要を満たしている姿が随所に見られ、主にある家族が共に美しい交わりを持つことができたことを感謝します。 来年のマウントハーモン修養会での再会を約束して、神様が遣わされているそれぞれの場所へ帰って行きました。 来年も主が多くの出会いを与えてくださることを願っています。 2023年のマウントハーモン修養会は、7月2日(日)から7月8日(土)までを予定しています。 申込みは1月中旬から始まります。 比較的早い時期に各部屋がいっぱいになることが予想されますので、早めのお申込みをお勧めいたします。 皆さまの上に主の霊が注がれますことをお祈りいたします。

JEMS
JAPANESE EVANGELICAL MISSIONARY SOCIETY

RETURN SERVICE REQUESTED

Non-Profit Org.
US Postage
PAID
Los Angeles, CA
Permit 2112

JAPANESE EVANGELICAL MISSIONARY SOCIETY
948 East Second Street
Los Angeles, CA 90012-4317
Tel: 213.613.0022
E-Mail: info@jems.org
Web: www.jems.org

JEMS – 日語部 支援 : NICHIGO-BU SUPPORT

☐ 日本語部とスタッフのためにお祈りいたします。

☐ 日語部の働きのために　毎月 $ _____ 捧げます。(　　月　　年まで)

☐ 今回 $ _____ 捧げます。

Name _____ Phone _____

Address _____ City _____ State _____ Zip _____

E-Mail _____

チェックのあて先は**JEMS**とお書き頂き、Memo欄に**Nichigo**とご記入下さい。

JEMS　P.O.BOX 86047 Los Angeles CA 90086-0047　電話: 213-613-0022

※オンライン献金 **https://jems.networkforgood.com/projects/10875-minako** もご利用頂けます。

編 集 後 記

西原 黎子

猛暑がアメリカ各地を直撃し、人々が消耗している頃、LAでは涼やかで快適な日々を楽しんでいました。 しかし予測通り、8月末から9月に入り、ただ今熱波の真っただ中におります。

そんな中のある日、いつもの山歩きをして、帰りの上りの道で、一歩も動けなくなり、座り込んで立ち上がれなくなりました。

30分ほど静止し、少し水を飲んで、やっと歩けるようになり山を下りました。 後にナースに症状を説明すると、完全に脱水症状、水分枯渇の状態だった様子です。 自分では全くの無自覚でした。 そう言えば、街中に入って水を浴びるように飲んだのを思いだしました。 「わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわきでる」という聖句をみつめながら、霊的枯渇にならないようにと祈りました。 みなさま、お一人お一人の健康が守られ、心に主の愛が注がれますように・・・・。